

成田為三の業績と実像を知って

為三研究者の後藤惣一郎さん、市公民館講座「先人に学ぶ」で

市の公民館講座「先人に学ぶ」が7月28日、浜辺の歌音楽館で開かれ、同館の終身名誉館長・後藤惣一郎さん(86)「栄字前綱」が「浜辺の歌」の作曲家として知られている成田為三の実像について熱く語りました。



講師の後藤惣一郎さん

合唱曲「から松」の作曲家としても知られる後藤さんは、為三研究の第一人者。講演では、はじめに後藤さんが、「浜辺の歌」は、世界的にも日本を代表する曲として知られている。もちろん素晴らしい曲だが、成田為三といえば、「浜辺の歌」の作曲家、また歌曲の作曲家と一辺倒に思われがち。しかし、本来は和声学や対位法な

ど音楽理論や作曲法に長け、オーケストラ曲も作曲した本格的な音楽家であった「など」と述べ、為三を正しく理解してほしいと述べました。また為三について研究を始めることになったきっかけの一つが、後藤さんが秋田県初の音楽指導主事に就任した際、日本の音楽界の巨人・山田耕筈氏にあいさつに行き、その場で秋

田の人たちはもつと成田為三を大切にしないと話しかけられたことだったと紹介し、為三の幼少時代から語り始めました。

後藤さんは、為三を紹介している資料には誤りが多いと指摘。幼少時代、役場職員だった父親からヴァイオリンを買い与えられていた、と紹介している資料についても、当時の役場職員の俸給を考えるとヴァイオリンを買い余裕があったとは思えない、また、為三の兄「憲生」が、為三がヴァイオリンを弾いていたのを見たことはないと語っていたことなどから、音楽の道を目指すことになつたのは秋田県師範入学後で、それ以前は学業成績は優秀だったものの、まだ音楽的素養に優れていなかったはなかつた」と説明していました。

為三の性格については、ドイツ留学時代も毎月2日になると決まっていた米内沢の実家に5円が送金されていたこと、妻の文字さんとは買い物にも必ず付き添い、荷物を持ってあげていたことなどから、親孝行で、妻思い、お金を貸してあげても返還には寛容で、人の面倒見がよかった人」と語っていました。

代表曲の一つ「浜辺の歌」は、もともと『はまべ』という題名だったのが出版社の都合で今の名称で世に広まった。林古溪の詞は、もともと4番まで

あったのが、なぜか3番までとなっている。また、仮名書きだった歌詞の一部「しのばるる」は意味からは「偲はるる」のはずだが、忍ばるる」と表記されてしまった。また、風よ音よが風の音よ」として定着してしまっている」と、オリジナルから変わってしまったことへの無念を述べていました。

後藤さんは、このような背景から、この音楽館の名称も当初は、成田為三顕彰会館」とすることを提案したが、歌の名称としてすでに定着しており、通りのよい現在の名称になった。しかし、浜辺の歌の作曲家といった一枚看板の為三ではなく、日本にオーケストラがなかった時代、作曲法を基礎から学び、本格的に作曲を行っていた為三の業績と人物像を正しく知ってほしい」と力説していました。

なお、第2・3回講座は次のとおり開催されます。講師は後藤惣一郎さん。聴講は無料です。

- 第2回講座
テーマ「作曲家としての本命はな
んであったか」 日時/8月25日(月)
午後1時30分
- 第3回講座
テーマ「浜辺の歌音楽館の役割」
日時/9月29日(月)午後1時30分
お問い合わせ
市中央公民館 ☎62-1130
浜辺の歌音楽館 ☎72-3014

なりた ためぞう 成田 為三 1893 - 1945



昭和15年頃の為三

旧米内沢村生まれの作曲家。二ツ井尋常高等小、秋田県師範卒。大正3年に現在の東京芸術大学の前身である東京音楽学校に入学し、在学中、在野の山田耕筈に作曲を師事します。大正4、5年頃「はまべ(浜辺の歌)」を作曲しました。

大正8年『赤い鳥』に「かなりや」を発表、一躍有名になります。以後、『赤い鳥』の専属作曲家となり、大正10年にはドイツに留学、作曲法を学びます。その後、国立音楽学校教授などを歴任。同20年4月には空襲で自宅が焼失、多くの作品を失います。同年10月、脳溢血のため51歳で急逝し、遺骨が米内沢の龍淵寺に埋葬されました。

3支所を廃止、総合窓口センターに

市組織・機構改革推進検討委員会

第16回北秋田市組織・機構改革推進検討委員会(委員長「佐藤修助副市長」)が7月23日、市役所大会議室で開かれ、市の組織・機構改革の素案を決定しました。

検討委員会は、退職者の増加などに伴って職員数が減少していることなどから、適正な人員配置を行うため、平成20年度からの組織機構改革に向けて平成18年4月、第1回委員会が開催され協議がスタートしました。

しかし、昨年の豪雨災害を契機に、緊急時の初動体制や適切な支援体制などを再検討することとし、現在は平成21年度の組織機構改革



16回の会合を経て素案を決定した北秋田市組織・機構改革検討委員会。素案は、職員の減少に配慮しつつ、市民サービスを低下させない窓口体制、既存施設を有効利用などを盛り込んだ内容となっています

に向けて協議を進めています。

市役所全体の職員数は、平成20年4月現在で595人。平成21年4月には571人とさらに減少する見込みです。

素案は、将来の職員の減少等に配慮しつつ、3支所を総合窓口センターにする。森吉支所に建設部と産業部を置く、など市民サービスを低下させない窓口業務体制、既存施設の有効活用、災害時の対応などを盛り込んだ計画となっており、7月28日には佐藤委員長が岸部市長に素案の内容を報告しました。今後、素案の細部を調整しながら議会や市民に説明し必要な部分を補完して平成21年度の執務体制を確立することになっています。

素案の主な内容

- 合川、森吉、阿仁支所をそれぞれ総合窓口センターとし、本庁にも総合窓口課を設置してサービスを提供する
- 企画部を再編し、財務部とする(財政課・税務課・管財課)
- 福祉事務所は健康福祉部とし、現在の5部署事務18課を6部16課とする
- 教育委員会は、現在の5課から4課とする。
- 建設部と産業部を森吉支所に配置する
- 税務課を分庁舎(旧社会保険事務所現建設部・産業部)に配置する
- 消防本部 病院診療所、出張所、その他の機能は従来どおりとする
- 業務ごとに班を設置し事務分掌を調整する

市長日誌

7月16日～31日

- 16日(水) あじさいの丘交流会に出席(中央公園) 北秋田市周辺衛生施設組合正副管理者会議(米代流域衛生センター)
- 17日(木) 県議会社会福祉委員会(鹿角北秋田管内行政視察で訪問の委員と面談(市役所) 水道料金審議会で委員に委嘱状を交付(分庁舎)
- 20日(日) 第2回北秋田市軽トラ市・フリーマーケットオープニングに出席(駅前商店街) 大館能代空港開港10周年記念感謝祭(レモニー)に出席(大館能代空港) 会に出席(市役所) 北秋田市周辺衛生施設組合7月議会に出席(米代流域衛生センター)
- 22日(火) 北秋田市農業委員に選任書を交付、同委員会総会に出席(市役所)
- 23日(水) 在京秋田県高等学校同窓会連合会に出席(東京都)
- 25日(金) 7月定例記者会見を実施(市役所)
- 26日(土) 講師としてスキндаイビング講習会に参加(民ホール)
- 28日(月) 第9回高齢者スポーツレクリエーション大会開会式に出席(鷹巣体育館) 第1回米代川水系河川整備学識者懇談会に出席(能代市文化会館)
- 29日(火) 秋田県市町村総合事務組合定例会に出席(秋田県市町村会館)
- 30日(水) 首都圏誘致企業懇談会に出席(東京都)
- 31日(木) 平成20年度第1回秋田県副市長会議に出席(四季美館) 平成19年度北秋田市一般会計決算審査講評(市役所)



第2回軽トラック市で(7/20)